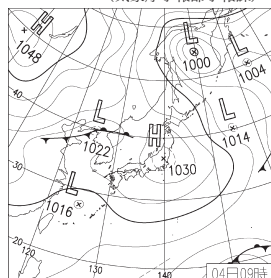


日々の天気図

— No. 146

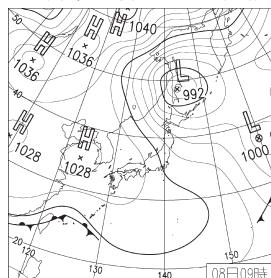
2014年3月

- 7日、長野県南牧村野辺山で最低気温-25.3℃、低い方からの3月の1位更新、年間を通じても2位。
- 13日、低気圧が本州南岸を通過し、激しい雨と強風。鹿児島県屋久島町小瀬田で100.5mm/1h、日降水量334.5mm、東京都三宅島坪田で最大風速26.1m/s、3月の1位更新。(気象庁予報部予報課)



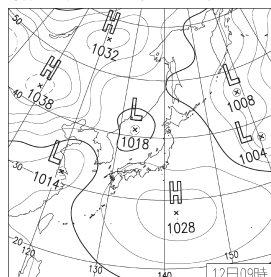
4日(火) 晴れから雨に

日中は高気圧に覆われ晴れた所が多いが、夜には東シナ海の低気圧東進により、西～東日本で雨域拡大。北日本も夕方頃から雨。鹿児島市でツバメ初見、広島市でウグイス初鳴。



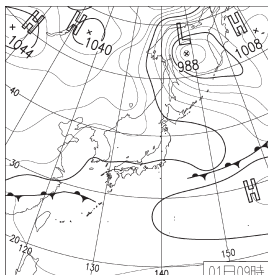
8日(土) 札幌7日間連続真冬日

北日本は風が強く太平洋側でも雪。北日本を中心に気温は低く、札幌は3月としては1933年以来的の7日連続真冬日。沖縄県南城市糸数と渡嘉敷村渡嘉敷で35mm/1hの雨。



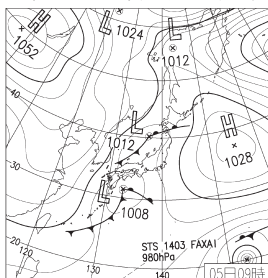
12日(水) 北陸で春一番

日本海の低気圧により東北北部を中心に雨や雪、秋田県湯沢市湯の岱で最深積雪222cm、史上1位を更新。晴れた西～東日本では日中の最高気温が平年より高く4月並。



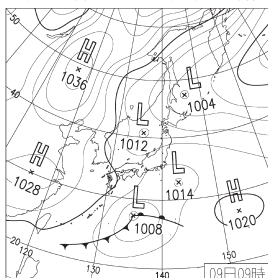
1日(土) 東シナ海の前線接近

前線に伴う雨域が西日本から拡大、夕方以降東日本や沖縄・奄美でも雨。北日本は寒気が入り太平洋側は晴れ、日本海側は曇りや雪。東～西日本は朝の冷え込みなく最低気温は4月並。



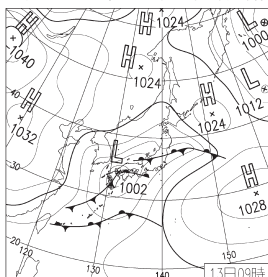
5日(水) 静岡県で大雨

日本海と本州南岸を低気圧が発達しながら東進、全国的に雨や雪となり、東日本太平洋側で大雨。静岡県御前崎199mmなど、静岡県の4地点で3月の日降水量の1位記録を更新。



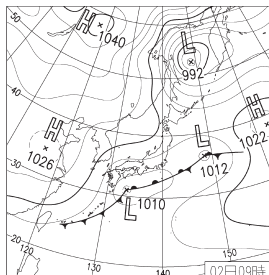
9日(日) 低温続く

冬型の気圧配置により山陰～北日本日本海側で降雪が続く。全国的に気温は平年並か低く、島根県海士島の最低気温-3.8℃は今季最低。父島の日最大風速18.6m/sは3月の記録更新。



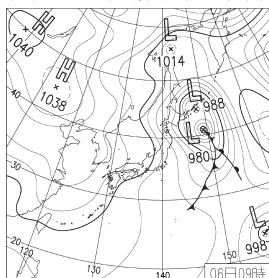
13日(木) 激しい雨と強い風

西～東日本の太平洋側を中心に激しい雨や雪、鹿児島県屋久島町小瀬田で100.5mm/1hの猛烈な雨。北海道えりも岬で最大瞬間風速37.6m/s、九州南部・奄美地方で春一番。



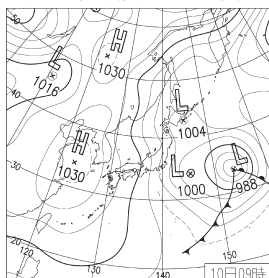
2日(日) 低気圧が東北東進

前線と低気圧により沖縄～東北南部は雨。北海道日本海側は寒気により所々雪。関東甲信～東北太平洋側は最高気温が平年より4～6℃低い。奈良市ウグイス初鳴、福井市ウメ開花。



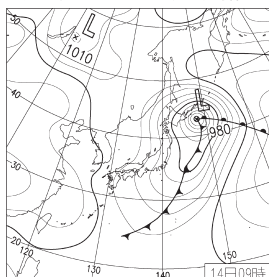
6日(木) 北日本で暴風雪

北海道南東海上の低気圧が発達しながら北上し、北日本は日本海側中心に暴風雪。他の地域でも風が強く、西日本の日本海側～北陸では降雪も。北海道羅臼で最大瞬間風速32.5m/s。



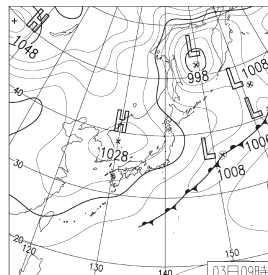
10日(月) 真冬並の寒気

冬型の気圧配置が続き、日本海側で雪や雨、太平洋側で晴れ。強い寒気の影響で気温は全国的に低く、長野県、岐阜県などの12地点で、3月の最高気温の低い方からの1位を更新。



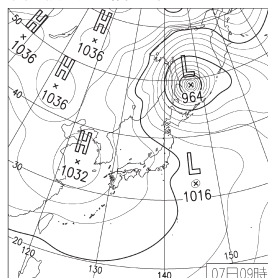
14日(金) 冬型の気圧配置

発達中の低気圧が千島近海を北東に進。全国的に北寄りの強風となり、朝の冷え込みは弱く後半に寒気流入。大分市でツバメ初見、名古屋市でウグイス初鳴、愛媛県で震度5強。



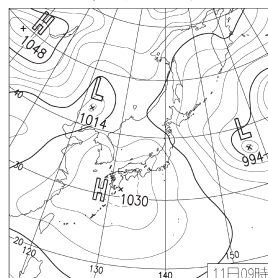
3日(月) 風が強く寒い一日

高気圧に覆われて概ね晴れたが、寒気の流入により最高気温は全国的に低く、東北～北海道の日本海側は雪。風は強く、沖縄・奄美を除く広い範囲に強風注意報発表。



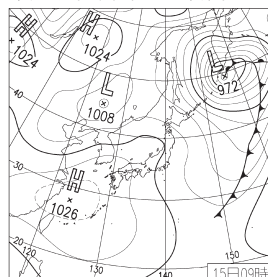
7日(金) 暴風雪続く

発達した低気圧がオホーツク海に停滞、北日本中心に強い冬型気圧配置で暴風雪持続。日本付近は寒さ厳しく、長野県南牧村野辺山で最低気温-25.3℃、3月の1位。



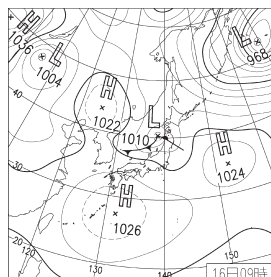
11日(火) 東日本大震災から3年

高気圧に覆われ西～東日本は晴れ。北日本は冬型の気圧配置で日本海側中心に雪。全国的に朝の冷え込みは厳しく、各地で平年を大幅に下回る最低気温。甲府市でウメ開花。



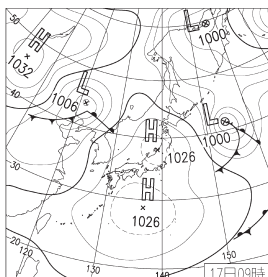
15日(土) 寒気残る

東シナ海に中心を持つ高気圧に覆われ、広い範囲で晴れ、北日本日本海側は曇りや雪。寒気の影響が残り、気温は全国的に平年より低い。金沢市、宇都宮市でツバメ開花。



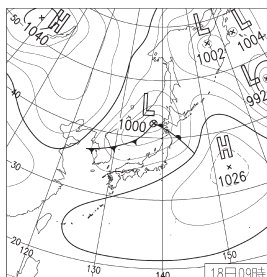
16日(日)中国地方で春一番

高気圧に覆われ、沖縄・奄美、西日本、東海、関東甲信は晴れ。日本海の低気圧や前線の影響で北陸、北日本は雨や雪、中国地方では春一番。佐賀市と高知市でツバメ初見。



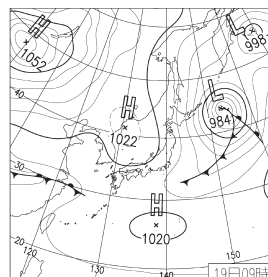
17日(月)春の陽気

全国的に移動性高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇。最高気温は西日本で4月中旬～下旬並。東～北日本で3月下旬～4月上旬並の所が多い。富山市と福井市でヒバリ初鳴。



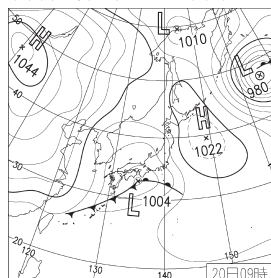
18日(火)春一番

日本海側中心に雨。低気圧に南風が吹き込み、四国と関東で春一番。関東は各地で20℃を超え最高気温は4月下旬並。高知市で平年より4日早くソメイヨシノ開花、今季国内初。



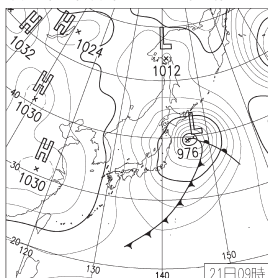
19日(水)関東南部は曇り

高気圧に覆われ広く晴れたが、関東南部では朝から下層雲広がる。西日本では東シナ海の前線の影響を受け夕方以降雨域拡大。宮崎市、佐賀市、福岡市でサクラ(ソメイヨシノ)開花。



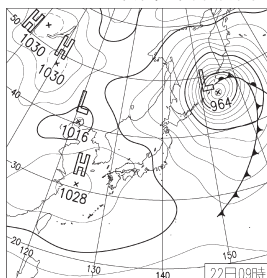
20日(木)南岸低気圧が発達

本州南岸を発達しながら進んだ低気圧の影響で、北海道を除き雨や雪。宮城県石巻市雄勝では日降水量80.5mmで3月の1位記録更新。鹿児島市、長崎市、熊本市でサクラ開花。



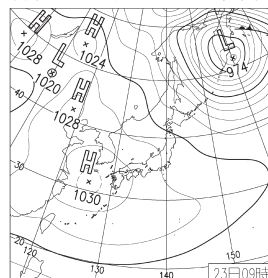
21日(金)北日本で暴風雪

三陸沖の低気圧が発達し全国的に寒気が流入、西日本日本海側や北陸は雪や雨、北日本では暴風雪。北海道根室市弥栄町で最深積雪115cmとなり、81年ぶりに史上1位記録を更新。



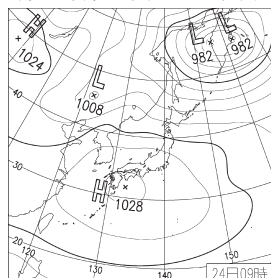
22日(土)寒気去る

千島付近の低気圧は遠ざかり強い寒気も抜け、西～東日本は高気圧に覆われて気温上昇。北陸以北の日本海側は、残った寒気により弱い雨や雪。下関市と神戸市でツバメ初見。



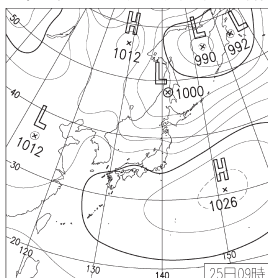
23日(日)晴れて気温上昇

移動性高気圧に覆われて晴れ。南西諸島は最低気温が平年より5℃前後低め。日中は気温が上昇し西日本を中心に最高気温は4月並。北日本は気圧の谷の通過時に雨や雪。



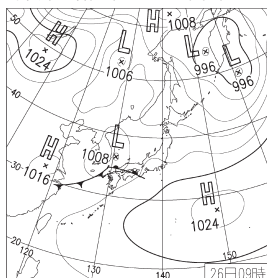
24日(月)全国的に晴天

高気圧に覆われ全国的に晴れ。朝は冷え込んだが、日中は気温が上がり最高気温は4月中旬～下旬並。松山市、名古屋市、岐阜市、静岡市でサクラ開花。モンシロチョウ初見も多数。



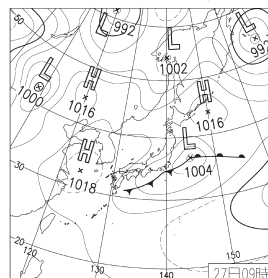
25日(火)東京などでサクラ開花

東日本は晴れたが西日本は曇りや雨。北日本は気圧の谷の影響で時々雨。全国的に気温は平年より高く、最高気温は関東を中心に5月並の所も。広島市、横浜市などでもサクラ開花。



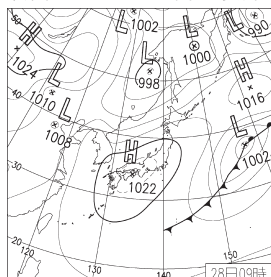
26日(水)佐賀でサクラ満開

未明から西日本で降りだした雨がその後東日本や東北南部に広がる。北海道は晴れ。北日本は所々で最高気温が5月並に。高松市、和歌山市でサクラ開花、佐賀市で満開。



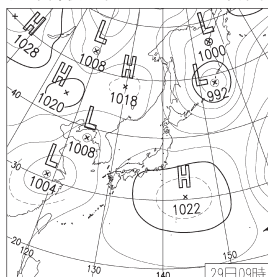
27日(木)全国的に暖かい朝

午後は全国的に晴れ間が出たが、関東～東海は雨残り。最低気温は全国的に平年より高く西～東日本で5月並。大阪市、京都市等7地点でサクラ開花。宮古島市下里で52.5mm/1h。



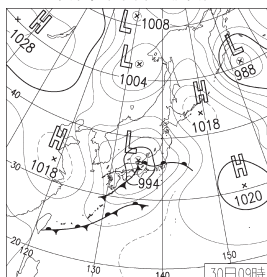
28日(金)九州で夏日

高気圧に覆われて晴れ、九州では夏日の地点も。南高北低の気圧配置となった北日本は風が強く北海道森で最大瞬間風速30.1m/s。岡山市、甲府市等でサクラ開花、宮崎市で満開。



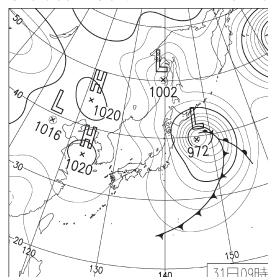
29日(土)全国的に気温上昇

日本の南の高気圧からの暖気により全国的に気温上昇。九州、四国は朝から雨で、午後以降雨域が東へ拡大。徳島市、銚子市、前橋市、宇都宮市、水戸市でサクラ開花、松山市で満開。



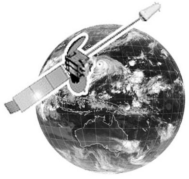
30日(日)東京などでサクラ満開

発達しながら本州付近を通過した低気圧の影響で荒れた天気。和歌山県古座川町西川で日降水量165.5mmなど61地点で3月の1位更新。沖縄県名護市宮里で最大瞬間風速33.9m/s。



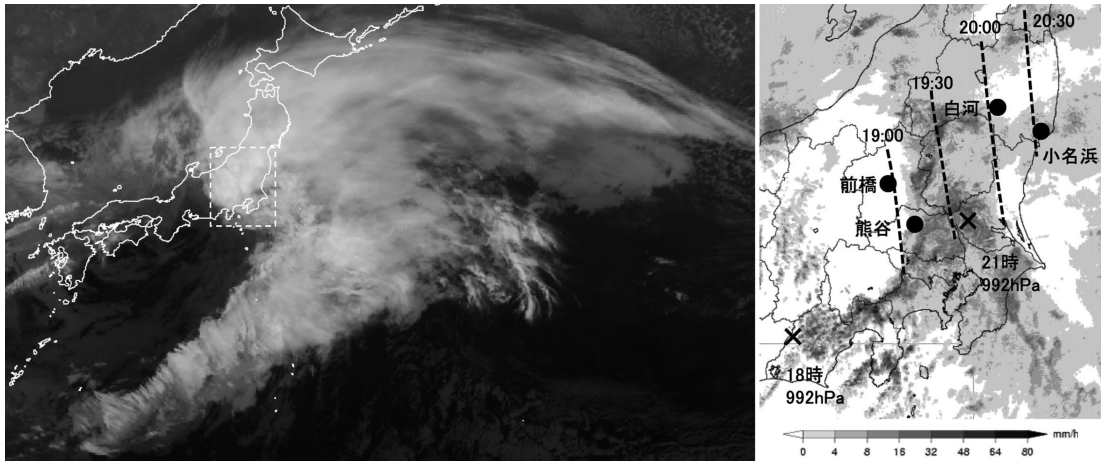
31日(月)北日本大しけ

三陸沖の低気圧が発達し北日本の太平洋側を中心に海上は大しけ。北海道えりも岬で最大瞬間風速34.4m/s。福井市でサクラ開花、鹿児島市、高松市、静岡市等7地点でサクラ満開。



今月のひまわり画像—2014年3月

顕著な Pressure Dip をもたらした低気圧

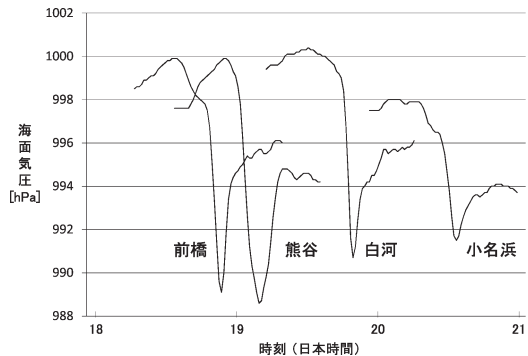


第1図 2014年3月13日19時（日本時間）の日本付近における赤外画像。右図は左図の点線内の領域における同時刻の関東付近におけるレーダー降水強度（記号×は同日18, 21時の低気圧の中心位置、数値は上段が時刻、下段が中心気圧、点線は急激な気圧低下の30分毎の等時線を示す）。

2014年3月13～14日、前線を伴った低気圧が日本付近を発達しながら通過し、多くの観測地点で降水量、最大風速などの3月の極値が更新された。この低気圧の影響により、沖縄から北海道にかけての広い範囲で土砂崩れ、家屋破損、交通障害などの被害が発生した。

第1図は13日19時（日本時間）の日本付近における赤外画像である。18時の地上天気図（略）によると、低気圧は東海地方を東北東に進んでおり、同画像では、日本海から北海道の東海上にかけて上層の発散域に対応する高気圧曲率のバルジ状の雲域を確認できる。また、同時刻の水蒸気画像（略）では、低気圧後面の四国沖から東海道沖にかけて、対流圏中層を下降している極めて乾燥した空気による暗域が明瞭であった。

この低気圧の特徴としては、進行方向に当たる北東象限における発達した対流雲域が挙げられる。局地解析を行うと、低気圧の中心とは離れた北東方向の領域で Pressure Dip（以下、PD）と呼ばれる気圧の急激な低下が見られた。特に顕著だったのは、前橋、熊谷で10分間に10～11 hPaもの気圧変化が観測された（第2図）。また、PDの起こる直前に気圧の上昇（気



第2図 13日18～21時に海面気圧の低下が顕著だった観測地点における時系列変化図。

圧の鼻)、一時的な強雨が見られ、やや遅れて突風が発生している地点が多かった。このPDはレーダー観測による強い降水域に対応しており、底の位置は関東北部～東西南部を約100～150 km/hの速い速度で東北東に進んでいた（第1図右図）。

参考文献

筆保弘徳、塚本 修、2000：台風9810号で観測された顕著な Pressure Dip。天気，47，443-451。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）